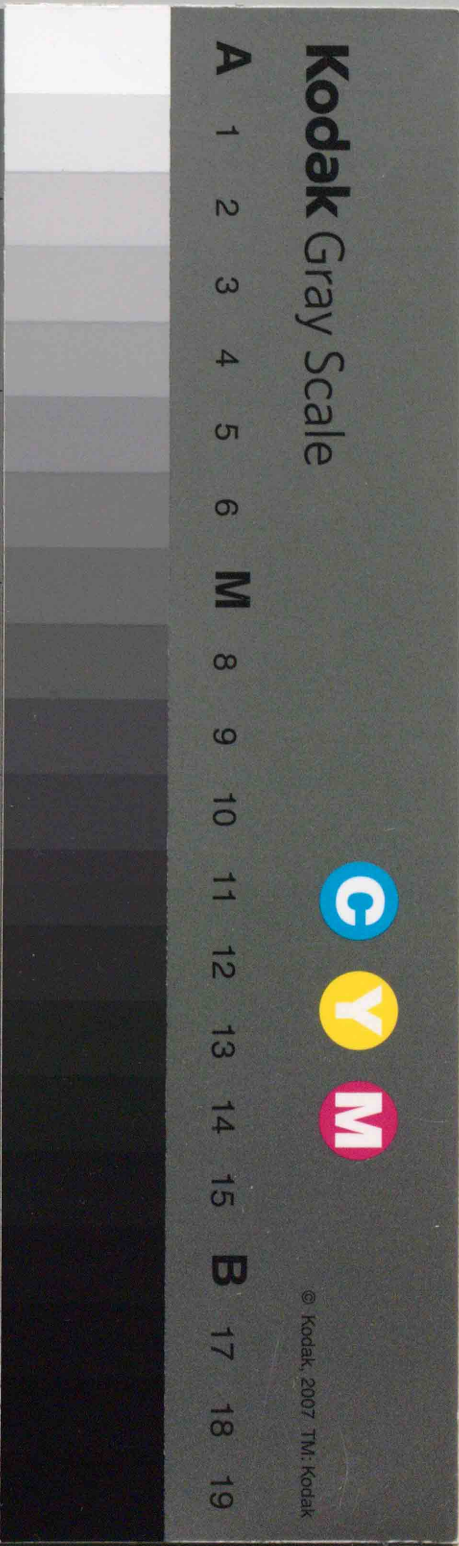
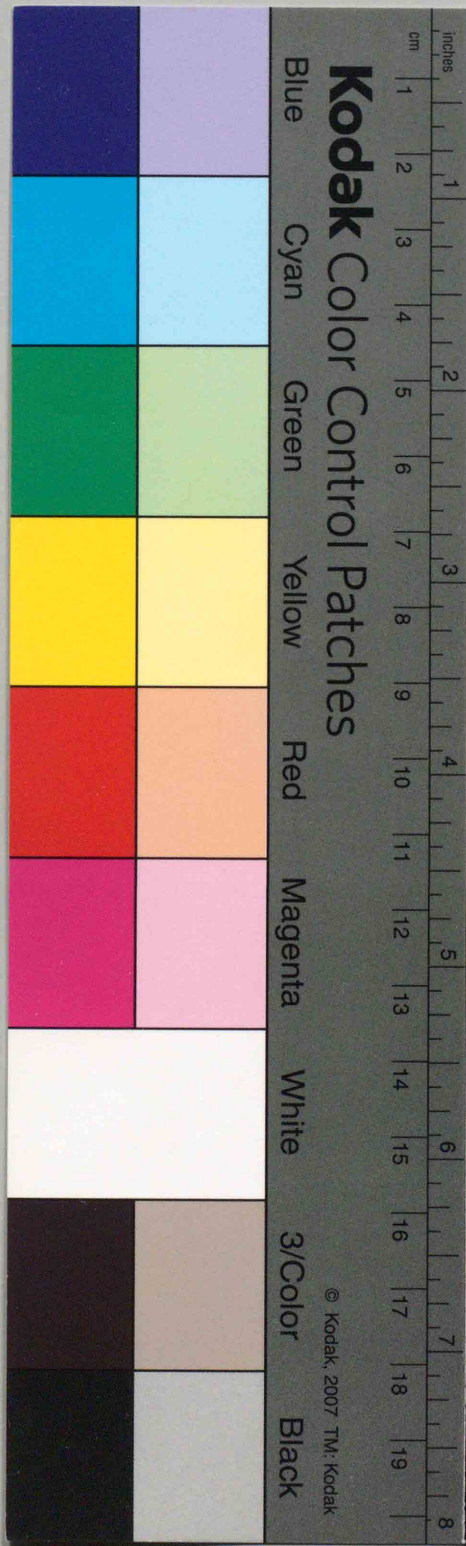


# 女學唱歌

壹

教科書文庫  
4  
760  
52-1902  
2500300268  
番號

760  
302  
2371



30181  
教科書文庫  
3-4  
760  
52-1902  
2500  
300269  
300268  
155  
1902





教科書文庫  
4  
760  
52-1902  
2500300268

日十月三年五十三治明

濟定撫省部文

山田源一

# 女學唱歌

壹

合資  
會社  
共益商社書店藏版

760 類  
302 号  
2391  
393

部  
冊  
數  
編  
九  
口  
号

2391 号  
4319



広島大学図書

2500300268







序

音楽を普通教育の一要素と認め唱歌を學校の課程に加へられしはつひ近き頃の事と思ひしにはや二十餘りの星霜を経ぬ其間幾多の變遷なきにあらざりしが特に當時女學生の唱歌には古調の律旋もてものせる歌曲多かりけるをいつしか新調の歌風に移れるはといちじるき現象にあらずとやいはんこはもと時勢の然らしむる所とはいへ斯道の爲に盡されたる人々の力によれること多きは云ふまでもなかるべし此度山田君のものせられたる唱歌集はことさらに西洋諸名家の作曲のみを集めまゝ君が作曲をも交へられたりと聞く斯くてこそ教育の理法を唱歌に應用し易より難に入り簡より繁に進むの順序を誤らず將來一般女學生の音楽の趣味をも一



變して優秀の氣品を養成するを得ん山田君は最も早く新音樂の門に入りたる人にして久しく東京音樂學校にまた女子高等師範學校に樂鞭を執れる人なれば其選曲の能く當を得て音樂教育に裨益を與へんこと余の信じて疑はざる所なり

明治三十三年七月二十八日酒匂郵絃海書屋にて

伊澤修二しるす

緒言

一本書ハ専ラ女子師範學校高等女學校其他之ト同一程度ノ女學校教科用トシテ適當ナル材料ヲ供給スル目的ヲ以テ編纂シタルモノナリ  
一本書中ノ歌詞ハ總テ本邦名家ノ手ニ成リ其樂譜ハ編者ノ作ヲ除ク外悉ク泰西名家ノ作ニ係ルモノ若クハ國風曲等ニシテ歌想樂想共ニ主トシテ本邦女子ノ性情ニ恰好ナルモノヲ選擇セリ





一本書中ノ歌曲ハ之ヲ單音複音及三重音ノ三種ニ類別シ各種ニ就キ畧ボ難易ノ順序ニ依リテ配當セリ但シ實際教授上ノ便宜ニ依リ多少ノ異動ヲ行フハ教授者ノ任意ナリトス

明治三十三年八月

編者誌

女學唱歌第一集

目次

- 一 忍ぶのころも
- 一 鶯告春
- 一 歡迎の歌
- 一 雪
- 一 つみくさ
- 一 愛國
- 一 園生の春
- 一 四季の詠
- 一 小鳥
- 一 卒業式の歌

- 一 落花
- 一 川のながれ
- 一 つれづれ
- 一 富貴の花
- 一 女のかゞみ
- 一 たのしみ我屋
- 一 夏の曙
- 一 潮干狩
- 一 隅田川
- 一 紅葉狩



忍ぶのころも

シノアノコロモチソノミーニーマトヘ  
 二・しのぶのをぐさをこころにうゑよ

ニシキニマサルハシノアノコロモ  
 はなにもまさるはしのぶのをぐさ

○忍ぶのころも

三輪義方作歌  
 山田源一郎作曲

一、しのぶのころもを、  
 その身にまとへ。

錦にまさるは、  
 しのぶのころも。

二、忍ぶのをぐさを、  
 こゝろにうゑよ。

花にもまさるは、  
 忍ぶの小艸。

附  
 輪 録  
 唱

一 寫眞

一 秋の夜

一 琴の音

一 秋漁

一 旅の暮

一 集會

一 懷友

一 たそがれ

一 櫻狩

一 祝歌

一 新年

一 花紅葉

一 兄弟

一 夜學

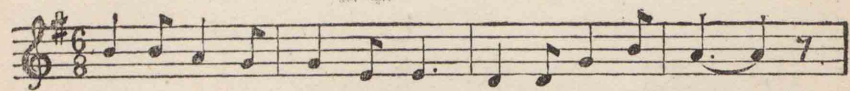
一 四季のあはれ

以上





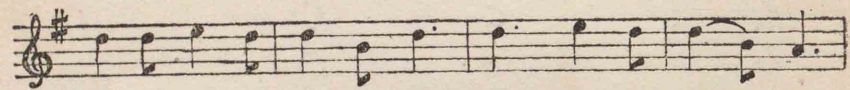
鶯 告 春



一、ノザハノコホリトケソメテ  
二、いつしかゆきもきえはてて



ウラコカリサヤモニヨラニ  
のきばのうめぞかをるなる



ハルクトツケルシガヒスーノ  
なくうぐひすのこゑより



コエノスエコリカスマナレ  
のやまもはるやしりぬらん

○鶯告春

一、野澤の水とけそめて。

うら若草や、もえぬらん。

春來と告る、うぐひすの。

こゑの末こそ、かすむなれ

二、いつしか雪も消えはてし。

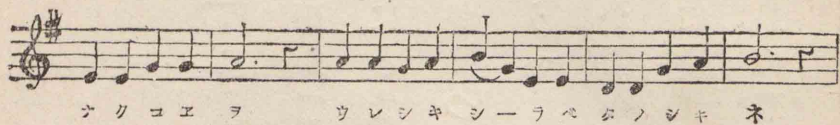
軒端の梅ぞ、かをるなる

なくうぐひすの、聲よりや。

野山も春や、知りぬらん。



歓迎の歌



○歓迎の歌

山田源一郎作曲

聞けよ森のをちここに。

さへづる小鳥のなくこゑを

嬉しきしらべ、楽しき音。

友をむかへて、よろこびの。

心や外にあふるらむ。

来れや来れ、いざ友よ。

われもうたはむ、もろともに。



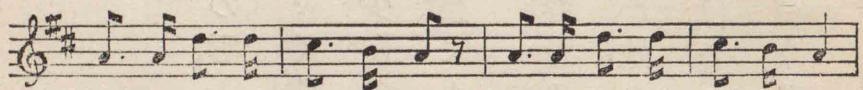
雪



一、イタヤノ キニ フリクル オトハ  
二、なごさの へに くだくる たまは



シグレカユキカ ヌノハカアメガ  
あられかゆきか はるさくはな



キエズニトマレ カキネノ マツニ  
とけずにのこれ かれふのしほに



ワガマツシメノ一ツホミノゴトク  
がてふのはれのいちりくるごとく

○雪

一、板屋の軒に降りくる音は。

時雨か雪か木の葉か雨か

消えずにとまれ垣根の松に。

わが待つ梅のつぼみの如く。

二、小笹のうへにくだくる玉は。

霰か雪か春さく花か。

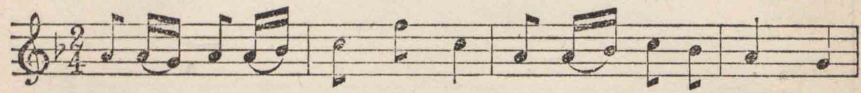
解けずに残れ枯生の芝に、

鵜鳥の羽ねの散りくる如く。

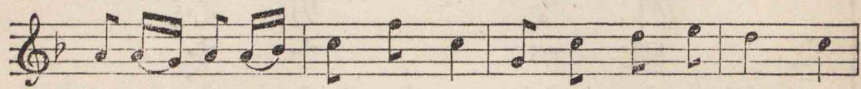
大和田建樹作歌



つみくさ



一、ノヤーマチーホホフサクーラノクモ  
二、うちつれかへるはる一ののばら



ミソーラニーヒビクヒバリノウタ  
しやうかはたしかいものとこゑ



ツミーケーサイソーゲチートメノトモ  
がごなるはなのその一なはなに



タンポーポヨメーナヨモギーニセリ  
すみれになづななたれにれんげ

○つみくさ

○つみくさ

一、野山をおほふ、櫻の雲。

みそらにひゞく、雲雀のうた。

つみくさいそげ、少女の友。

たんぼぼ嫁菜、よもぎに芹。

二、うちつれかへる、春野の原。

唱歌はたしか妹の聲。

籠なる花の、其名はなに。

すみれになづな、菜たねにれんげ。

大和田建樹作歌



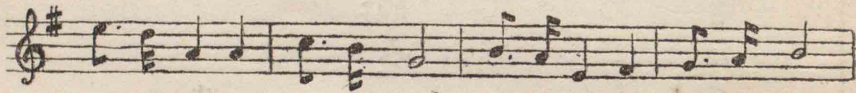
愛 國



一 ヤマトゴコロヲイヤフリガ—コシ  
二 かみよなが—らのわがひのも—とは



ヲトコヲミ—ナモミナモロト—モニ  
とつくにび—ともかしこみあ—ふぐ



ミクニチマモレイノチニカケテ  
まもれよまもれいのちにかけて



ミクニチマモレイノチニカケテ  
まもれよまもれいのちにかけて

○愛 國

一、大和心をいやりおこし

男をみなもみなもろともに。

皇國を守れ、命にかけて

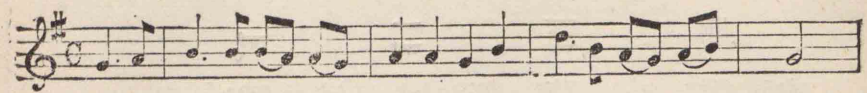
二、神代ながらの、我日の本は。

外國人も、かしこみあふぐ。

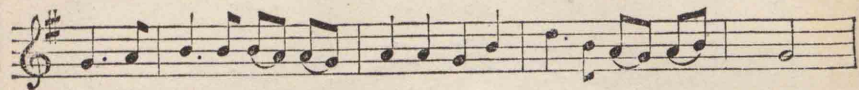
守れよまもれ命にかけて。



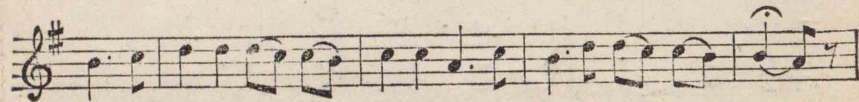
園生の春



ハルカセフーキー キタミソ ラモカースー ミ



ウグヒスナー キタサク ラモサーキー ヌ



イゾトモキーター レヤソノ フナメーグーラム



トリスアハナー サヘツキ タツモノーラ

○園生の春

春かぜ吹き来てみそらも霞み。

うぐひす來鳴きてさくらの咲きぬ。

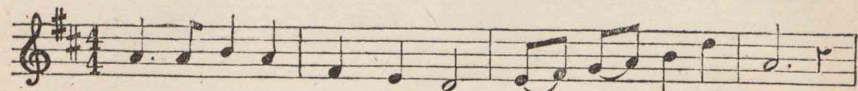
いざともきたれや園生をめぐらむ。

鳥さへ花さへうきたつものを。

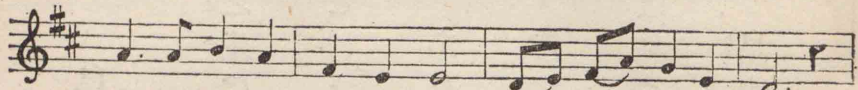
武鳥又次郎作歌  
アルン作曲



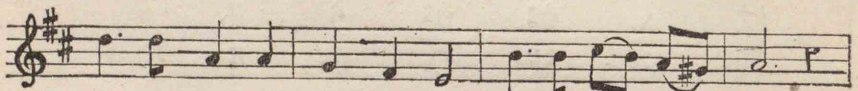
四季の詠



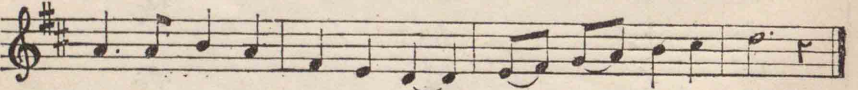
一、カ ス ミ ニ ト サ シ シー パー ノ ト ニ  
 二、さ み だ れ は れ し ゆー ふー ま ぐ れ  
 三、キ ク ノ サ カ リ ニ ナー リー ヌ レ バ  
 四、ゆ き よ り し ら む あー さー ぼ ら け



ヒ ト ク ト ツ ア ル ウー グー ヒ ス ハ  
 つ き や い か に と なー がー む れ ば  
 ロ が ソ テ サ ヘ モ ニー ホー フ ナ リ  
 と や ま の い ほ に たー つー け ぶ り



ハ カ ル ト シ レ ド ハ カ ラー レー テ  
 の き の あ や め に た ま なー せー る  
 オ ホ シ タ テ シ ア サ ヨー ヒー ノ  
 こ る も で う す き し づ のー なー が



ウ レ シ キ ハ ル ト ソ ウー ター ヒ ケ ル  
 な ゴ リ の つ ゆ も がー をー る な  
 ツ エ ノ メ グ ミ ソ シー ラー レ ケ  
 よ わ た る わ ざ こ そ あー はー れ な

○四季の詠

山田源一郎作曲

一、霞にとぢし、柴の戸に人來と告る、うぐひすは、  
 はかるとしれど、はかられて、嬉しき春とぞ、うたひける。  
 二、さみだれ晴し、夕間ぐれ。月やいかにと、ながむれば、  
 軒のあやめに、玉なせる。なごりの露も、かをるなり。  
 三、菊の盛になりぬれば、我袖さへも、匂ふなり。  
 おほしたてゝし、朝宵のつゆのめぐみぞ、知られける。  
 四、雪よりしらむ、朝ぼらけ、外山のいほに、たつけぶり。  
 衣手うすき、しづの男が、世わたる業こそ、あはれなれ。



小 鳥



一、ソノフノ シバ—フニ アサレル コトリ  
二、あれあれ やな—ぎに また まつ びえに



ノド ケ キ ヒ カ ゲ—ニ ウ カ レ—ヤ ス ラ ン  
お は れ つ お ひ つ—つ と む—つ ま し く



ア—レ—ア レ タ—ガ—ヒ ニ ト—モ—ヨ ビ カ ハ ス  
と—リ—す ら と—も—と は し—た—し む も の を

○小 鳥

中村秋香作歌

一、園生の芝生にあされる小鳥

のどけき日影に、うかれやすらん。

あれくたがひに、友呼びかはす。」

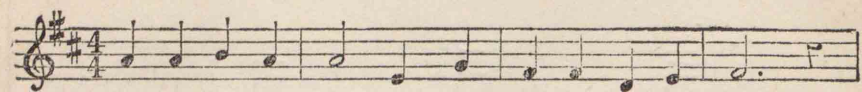
二、あれく柳に、また松が枝に。

おはれつおひつゝ、いとむつましく。

鳥すら友とは、親しむものを。」



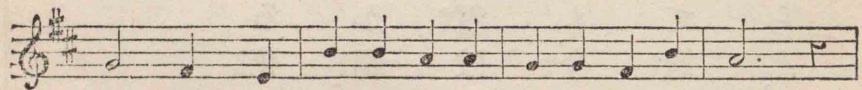
卒業式の歌



一、 ア シ タ ニ ヲ ク ル ミ チ シ バ モ  
 二、 は 一 な の さ か り も よ そ に き き  
 三、 テ シ ヘ ノ ソ ノ ニ ガ ヒ タ チ シ



ユ フ ベ ニ ハ ラ フ コ ト ノ ハ モ  
 つ ー き の ま と ゐ に そ む き つ つ  
 ヲ カ キ ノ ウ メ ノ ケ フ ヨ リ ハ



ユ キ ト ホ タ ル ノ ヒ カ リ ニ テ  
 つ と め い そ し む は る あ き の  
 キ ヨ キ ミ サ ナ ノ イ ク ハ ル モ



カ ガ ヤ ク ケ フ ー ノ ム シ ロ カ ナ  
 つ き ひ ば ふ ー み の ひ が り が な  
 ヨ ー モ ニ カ チ ラ ム ハ ナ ノ カ ハ

○卒業式の歌

山田源一郎作曲

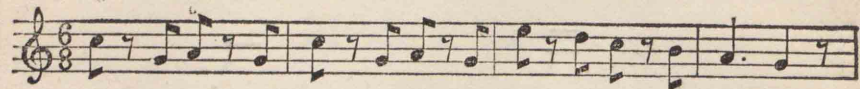
一、 朝あしたにわくる、みちしばも。  
 夕ゆふにはらふ、言ことの葉はも。  
 雪ゆきと螢たなの光ひかりにて。  
 かゞやく今日の、むしろかな。

二、 花はなの盛さかも、よそにきよ。  
 月つきのまとるに、そむきつよ。  
 つとめいそしむ、春はる秋あきの。  
 月つき日はふみの、光ひかりかな。

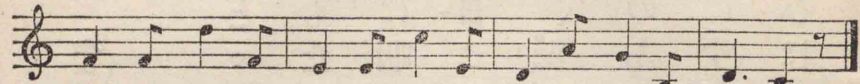
三、 教まがの園のに、生なひ立ちし。  
 わかきの梅うめの、今いま日よりは。  
 清きよきみさをの、幾いく春はるも。  
 四よ方かたにかをらん、花はなの香かほは。



落花



一、ヒ ラヒ ラ チ リ ク ル ハ ナ ノ サ マ ハ  
 二、み る み る し ば ふ に ゆ き は み ち の  
 三、イ ザ イ ザ ヒ ロ ヒ テ カ ゴ ニ イ レ テ



ユ キ ア ベ ノ ア ラ レ カ ア サ ノ エ キ カ  
 ト の ふ の さ か リ も げ ふ は ヅ め よ  
 モ ニ モ オ ク ラ ン ハ ル ノ カ ヌ ミ

○落花

大和田建樹作歌

一、ひらくちりくる花のさまは

ゆふべの霰か朝の雪か。

二、みるく芝生に雪はみちぬ。

きのふの盛も今日は夢よ。

三、いざどひろひて籠に入れて。

友にもおくらん春のかたみ。



川のながれ

一、ア— シアモト ドロニチドリニ—グ—ハ  
 二、わ— がゆくま なびのみちもこ—れ—ぞ

コ— コロモタノシキミツノタ—ビ—ヤ  
 き— のふのふもとほけふのた—が—れ

コ ノハニ—ム—セビシコエハキ—ノ—フ  
 が づらに—す—がりつ いしによ—ぢ—つ

ケ— フコソ—エ—タケキカハニウ—ヨ—ユ  
 つ— ひには—や—へだつくものう—へ—に

○川のながれ

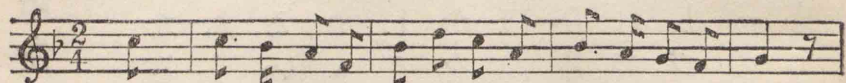
大和田建樹作歌

一、足<sup>あし</sup>ふみとゞろに、躍<sup>をど</sup>りゆくは。  
 心<sup>こころ</sup>もたのしき、水<sup>みづ</sup>の旅<sup>たび</sup>路<sup>ぢ</sup>。  
 木<sup>き</sup>の葉<sup>は</sup>に咽<sup>なげ</sup>びし、聲<sup>こゑ</sup>は昨日<sup>きのう</sup>。  
 今日<sup>けふ</sup>こそゆたけき、河<sup>がは</sup>に海<sup>うみ</sup>に。

二、わがゆく學<sup>まなび</sup>の、道<sup>みち</sup>もこれぞ。  
 き<sup>き</sup>のふの麓<sup>ふもと</sup>は、今<sup>け</sup>日<sup>ふ</sup>の高<sup>たか</sup>嶺<sup>ね</sup>。  
 かづらにすがりつ、石<sup>いし</sup>によぢつ。  
 つひには八<sup>や</sup>重<sup>じゆう</sup>だつ、雲<sup>うみ</sup>の上<sup>うへ</sup>に。



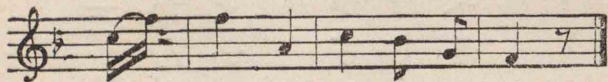
つれづれ



一、オ モ ハ ヌ カ タ ニ モ ユ サ シ キ モ ノ  
 二、こ ろ に な く と も わ び し き も の



ハ ル ノ ツ レ ヅ レ ミ ニ フ ト イ ル  
 あ き の つ れ づ れ こ ー す ゑ ゆ ふ つ く



ヨ ソ ノ コ ト ノ ネ  
 て ら の か れ の ね

〇つれづれ

旗野十一郎作歌  
 ボーマン作曲

一、思はぬかたにも、懐しきもの。

はるのつれづれ。

みゝにふといる、他家の琴の音。

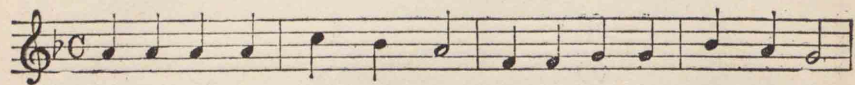
二、意になくとも、わびしきもの、

あきの徒然。

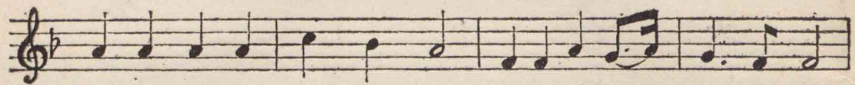
こずゑゆふづく、寺の鐘の音。



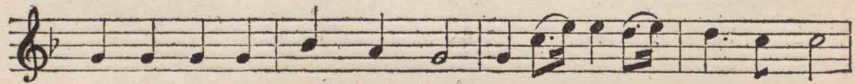
富貴の花



一、ア テ ナ ル サ マ ヤ ソ ノ フ ノ ホ タ ヌ  
 二、オ ア シ キ イ ル ヤ ミ ギ ハ ノ ハ チ ス  
 三、カ ク レ ガ フ カ ク チ ト セ ノ ア キ チ



フ ウ キ ノ ハ ナ ト ヲ ベ コ ソ ー イ ヘ レ  
 か な り も き よ し つ ゆ さ へ ー き よ し  
 シ ヅ カ ニ オ ク ル シ ラ ギ ク ー ア ハ レ



ニ ホ ヘ ル イ ロ ハ ニ シ ー キ チ ー ヨ ソ ヒ  
 な つ な ほ ふ れ る ゆ き ー か と ー ま が ひ  
 ヌ フ ベ ノ キ リ ニ ヒ カ ー リ チ ー ツ ツ ミ



カ カ レ ル ツ ヌ ハ ー タ マ チ ツ ー カ ザ ル  
 ひ る さ へ つ き の ー お も か げ ー う か ぶ  
 ア シ タ ノ カ セ ニ ー カ チ リ チ ー モ ラ ス

○富貴の花

三輪義方作歌

一、あてなるさまや、園生のぼたん。  
 句へるいろは、錦をよそひ。  
 かゝれる露は、玉をぞかざる。

二、すゞしきいろや、みぎはのはちす。  
 かをりもきよし、露さへきよし。  
 夏なほふれる、雪かとまがひ。

三、かくれがふかく、千年の秋を。  
 しづかにおくる、白菊あはれ。  
 ゆふべの霧に、光をつゝみ。  
 あしたの風にかをりをもらす。



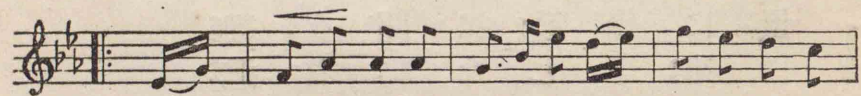
女のかがみ



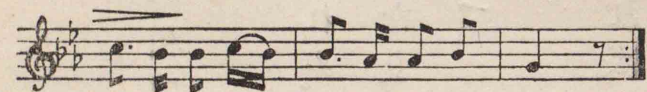
カ - モヘバユ カシキチー シヘノタネ



タ - ダシキチ ミナノカ - ガミトミン



チー トセノノ チマテムー ラサキニ  
オ - トナフク ヒナニネー ヤノトユ



ホヘルコー トベノイ ロ  
ルサヌコー コロノフ シ

○女のかがみ(紫式部)

三輪義方作歌

おもへばゆかしきをしへのたね。

たゞしきをみなのかがみとみん。

千年の後まで、むらさき匂へる、言葉のいろ。

おとなふくひなに、閨の戸ゆるさぬ、こゝろのふし。



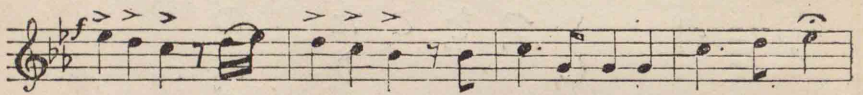
たのし我屋



一、ク キギセーカーヒクルターニノホーソーマーチ  
二、み ちのさーねーらびはもーすにのーこーしーて



ア ラシミーニシミテユーフヒカーグーレヌ  
ホ、れしたーにーがはのはーしをわーたーれば



タノシ ワーガヤハ コノマニミエタリ  
うれし わーがやば ちかくにきたれり



ノ キノイトーヤナギカーセニナービキテ  
に はのはーなーいばらかーぜにかーをりて

○たのし我屋

大和田建樹作歌

一、薪たきぎせおひくる谷たにの細道ほそみち。

嵐身あらしみにしみて、夕日ゆひかくれぬ。

たのし我屋わがやは、木この間まに見えたり。

軒のきの糸柳いとやなぎかぜになびきて。

二、道みちの早蕨わらびは、あすにあす残のこして。

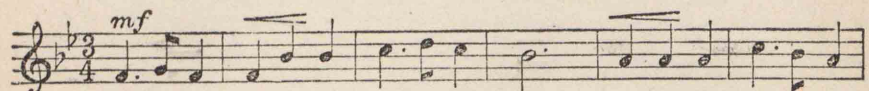
なれし谷川たにがわの、橋はしをわたれば。

うれし我屋わがやは、近ちかくに來まれり。

庭にはの花はないばら、風かぜにかをりて。



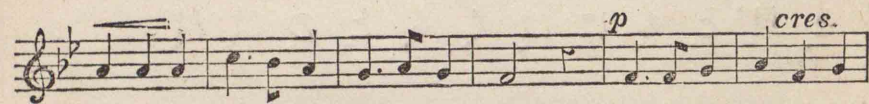
夏の曙



一、ツキハ ソラニ ノヨリ テ シラミ リタル  
二、よはの ほたる みつよ つ ともしのこる



ヤマノ ハ クモノ イロモ スズシク  
すずし さ たかき もりの うへに は



マツノ カズモ ミエタリ ミヨヤ ノベノ  
せみの こゑも きこえぬ おきて ふめや



ナデシ コ ツユニ ヌルル エガ ホ ナ  
あきつ ゆ こちよきは このと き

夏の曙

○夏の曙

一、月はそらにのこりて、

しらみわたる山のは

雲のいろもすゞしく、

松のかずも見えたり。

みよや野邊のなでしこ、

露にぬるゝ笑顔を。

二、夜半のほたる三つ四つ、

ともしのこるすゞしさ。

高き森のうへには、

蝉の聲もきこえぬ。

おきてふめや朝露、

こちよきは此時。

大和田建樹作曲



潮 干 狩

Allegretto.



一、フキクルーカーゼニハシホーケーカーターリ  
二、はなりのかみにはひかげにほひ



ハルケキーカーミニハミドリーシキテ  
こぞめのたすきにしろきかひな



ヒカタモヒトノハナサヘサーク  
つつみしうたもけふにははれ



カタマコチケヨトテテニサゲツツ  
きみよわらはよととにさざめき



シラヌモシルモヨバレツヨビーツ  
はまぐりあさりとりどりあそび



エミゴエタカクウチムレニク  
こしかひありとみなよるこぶ

潮 干 狩

○潮干狩

二、  
一、  
来、蛤 君、慎、緋、放、笑、し、籠、干、遙、吹、  
し、よ、秘、染、下、ら、小、瀉、け、き、  
か、わ、し、の、の、聲、ぬ、桶、も、海、き、く、  
ひ、文、ら、は、唱、の、髪、高、知、る、人、に、風、に、  
あ、り、は、よ、歌、に、は、く、も、と、の、は、は、  
と、貝、と、も、に、は、く、も、と、の、は、は、

み、と、と、け、し、日、う、よ、手、花、緑、潮、  
な、り、も、ふ、ろ、影、ち、ば、々、さ、し、潮、  
よ、る、に、に、は、か、に、む、れ、つ、提、へ、し、気、  
こ、あ、そ、び、き、然、な、ひ、く、び、つ、つ、咲、き、を、  
ぶ、び、き、然、な、ひ、く、び、つ、つ、咲、き、を、

旗野十一郎作曲



隅 田 川



一 ツ ツミノヤー ナギニヨ ノイローノー コシテ  
二 ま たゆふーすー すみにつ きみにーむー しきき



ハー ナヨリーアー ケユリア ケボノノー ケシキ  
いー づれのーとー きはかお むかしーかー らざあ



ミ ギハノアー シーマーニフ ネーノリーハー ナチテ  
い ざこのーあー たーリーにい ほーリーをーむー すびて



ユ キーフーミーワークエークエ フケレノー ナガメ  
わ がーよーのーかーぎーリーをす みだのーかー はぎし

○隅 田 川

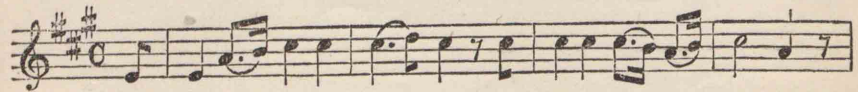
中 村 秋 香 作 歌

一、堤の柳に、  
花より明けゆく、  
汀のあしまに、  
雪ふみ分けゆく、  
また夕すゝみに、  
いづれの時にか、  
いざこのあたりに、  
わが世の限りを、

二、  
夜の色残して、  
あけぼのけしき、  
船のりはなちて、  
ゆふぐれのながめ、  
月見にむしき、  
おむかしからざる、  
庵を結びて、  
すみだの川岸、



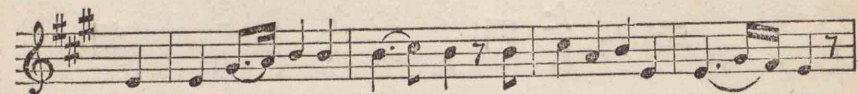
紅葉狩



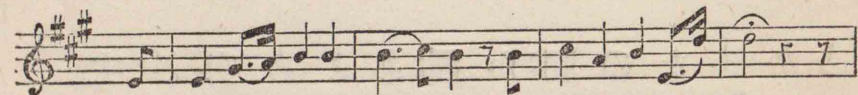
一、オ クヤーマハ ヤーマ ツ エロクートー コ ロ  
二、い はまーのし みーづ い ざわれーくーまむ



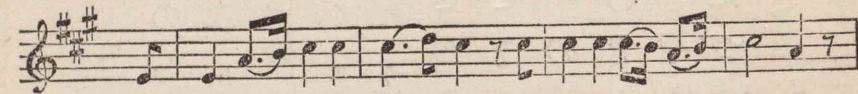
イ ツコーモア キーノイロドルーモナー カ  
こ かげーにむ しーろいざわれーしかーむ



サ クラーナラ ネード ミ テノミヒトー ニ  
そ れよーこれよーと か たみにさわーぐ



カ タラーマシヤーマ エダノモミーダ  
わ ざぞーたのしーき あきのおそーび



チ ラバーチル ベーシ チラヌモークーヤシ  
お ちばーかきよーせ ふきたくーのーびに



ケ フハーテギ ヌーニソゾーテーカヘラ Δ  
か ほもーもみ ぢーのいろーぞーにほへる

○紅葉狩

二、 一、  
顔落所そ木巖今を語さいお  
も葉爲れ蔭間日はらくづく  
もかぞよにのハばらこ山  
みきたのれむの手ちるもは  
ぢよのしよし清巾にるべやね秋や  
のせきとろ水にしははどのま

色吹秋互い染を枝見杖  
ぞきたにざざいめらてろひ  
句くののされれぬののどく  
へ野のさわ敷酌へく紅のみる  
るに遊ぐむむし葉に中る  
旗野十一郎作曲



新年

一、トシ タツ アシ ターノ フク カーゼーキヨ ミツ  
 二、わが おほ みく にーの かし こーきーみい づつ

ハレ ニ ハレ タ リーヤ ヤー ヘーノーサギ リタ  
 カガ ヤキ わた れーる あさ ひーのーみは

ミラ タ スカギ リーハ ソラ スキ ヲタゼ リ  
 とし た つ あし たーの の ど け き か ぜ に

ヨモ ニ カ ガ ヤ クーヤ アサ ヒーノーミハ タ  
 うち と の た み くーさ な び きーやーす ら む

ミカ ゲ チ シ タ ヒーテ ヨリ クル ク ニ グーニ  
 そら に は ま び がーふ あし た づ の ー こーる

アハ レ ア ナーメーテ タ ア ハ レータノ シ  
 の べ に は たーなーび く が す みーの そ で

四十一 *rit. e dim.*  
 ミヨ モサカユ ルーヤ クニ モサカユ ルーヤ  
 あは れ め で た しーや あは れ お も し るーや

○新年

○新年

一、年立つ朝の  
 はれにはれたりや  
 見渡すかぎりは  
 四方にかゝやくや  
 みかげをしたひて  
 あはれあなめでた  
 御代も榮ゆるや  
 我大御國の  
 かゞやきわたれる  
 年立ちあしたる  
 内外の民草  
 空にはよびかふ  
 野邊にはたなびく  
 あはれめでたしや

二、吹風きよみ  
 八重のさざり  
 空すみわたる  
 あさひのみはた  
 よりくる國々  
 あはれたるし  
 國もさかゆるや  
 かしこきみいづ  
 朝日の御旗  
 のどけきかぜに  
 なびきやすむ  
 あしたづのこゑ  
 かすみのお袖  
 あはれ面の白や

四十一



# 祝歌

パン ザイバンザイバン ザーイマ マモノモカスミヲタリ  
 ハナヲラヒトリウタフキミガヨノハルノヒニ  
 カツラチーリーエシワカトモノソノクワウエイ  
 ガモヘバソノノミノクワウエイノミカ  
 ミヨノヒカリミクニノサカエ  
 ハナモトリモイハヘイハヘア  
 アアアアバンバンザイ

四十三

花御 お桂君 花山 萬歲  
 あも代へばその身のしひも  
 ヽも鳥の身しひも  
 ヽも光のしひも  
 萬祝御光我春鳥か  
 へや國ののうすみ  
 女いのみ光日たわ  
 はのるかにふり  
 歳へ榮か榮にふり

# ○祝歌

三輪義方作曲

○祝

歌

四十二



櫻 狩

*Moderato.*

二ハルノカカーゲノドカーナリ  
 二みれのさくらさきよにけり

ハルノヒヨリウララナーリ  
 たにのさくらさきよにけり

*cres.*

ハルノヤマベマジョリナ  
 こはつなぐふもとち

*cres.*

ヤマノサイクヘサイキヌラム  
 まのさいくへさいはねらふ

*p*

イデヤコマニクラーケヨ  
 くものいまくへわけすて

*cres. f rit.*

イザヤユカムサクラガ  
 はなにまよふはるのひ

*p a tempo.*

ワガココロイサムナリノドカナリヤハル  
 わがこころいさむなりのどかなりやはる

*mf cres. f*

ノリゴママモイサムナリウララナリヤハル  
 のりごまもいさむなりうららなりやはる

○櫻 狩

鳥居 忱作歌

一、春の影長閑なり。春の日和融々なり。  
 春の山邊交りなむ。山の櫻咲きぬらむ。  
 いてや駒に鞍置けよ。山の櫻咲きぬらむ。  
 我が心勇むなり。長閑なりや春日。  
 乗駒も勇むなり。融々なりや春日。

二、峰の櫻咲きにけり。谷の櫻咲きにけり。  
 駒は繋ぐ麓路に。山のいくへ岩根ふみ。  
 雲の幾重分け捨て。花に迷ふ春日。  
 我が心勇むなり。長閑なりや春日。  
 乗駒も勇むなり。融々なりや春日。



たそがれ

一、コガネノナミカトナガメシクモハ  
 二、はるかにきこゆるのでらのかれに  
 三、ナニストシモナクムナシククレヌ

ミルミルハカナクイロアセニキチ  
 たぐひてハよせきねゆふべのいろは  
 ロガヨモツロニハカガリヤスラシ

○たそがれ

中村秋香作歌  
 ウエーベル作曲

- 一、黄金の波かとながめしくもは。  
 見るくはかなく、色あせゆきて。
- 二、はるかに聞ゆる野寺の鐘に。  
 たぐひてよせ來ぬ、ゆふべのいろは。
- 三、なにすとしもなく、むなしく暮れぬ。  
 わがよもつひには、かゝりやすらん。



懐 友

Moderato.

一、コ ノ メ モ ハ ル ノ ナ サ ク ニ ハ  
 二、も み ぢ も あ き の つー き て ろ に は

ナ ガ メ ニ ウ カ プ オー モ ロ ハ ナ ニ  
 な が め に う か ぶ おー も ひ は な に

△ ツ ビ シ ト モー ト ウー タ ヨ ミ カー ハー シ  
 らー) で に し ひ とー と かー た ら ひ なー がー ら

ア ヒ ミ シ イー ロ ア ア コ ノ イー ロ  
 あ ひ み し がー げ あ ら こ の か げ

○懐 友

旗野十一郎作歌  
 シルヘル作曲

一、この芽もはるの花さくには。  
 眺にうかぶおもひはなに。  
 むつびし友と、歌よみかはし。  
 あひ見し色あゝこのいろ。』

二、もみぢもあきの、月照る庭。  
 ながめに浮ぶおもひはなに。  
 愛にし人と、語合ひながら。  
 あひみし影あゝこのかげ。』



集 會

*Allegretto.*

一、ア ナ オ モ シ ロ ノ ケ フ ノ △ シー ロ  
 二、む か し な し の び い ま を か た ー リ

*mf*

ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノー ホ ノ マ ト 井  
 た が ー ひ に つ ゆ も こ こ ー ろ を お が す

*mf*

ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノー マ ト 井  
 た が ー ひ に つ ゆ も こ こ ー ろ を お が す

*crs.*

オ モ フ ト モ ー ド チ ヲ ア カ イ ヲ レ ー ア  
 お も ふ こ と ー ど も い ひ が は し つ ー つ

○集 會

中 村 秋 香 作 歌  
 グ ン ベ ル ト 作 曲

一、あなおもしろの、今日けふのむしろ。

あなこゝろゆく、このひのまとる。

おもふ友ともどち、袖そでかいつれて。」

二、昔むかしをしのび、いまをかたり。

たがひにつゆも、心こころをおかず。

思おもふことゝも、言いひかはしつゝ。」



旅の暮



ユ フ ベ ノ ツー ラ キー リ タ チ コー メ  
ト マ ル カー リ コー エ モ サ ビー シ



コー ロ シ ヤ ト シー ツー キ ナ レ ニ シー フー ルー サート



コー ノー ヴ キー ハ コー ナ ノ ナ ガ チ

○旅の暮

三輪義方作歌

ゆふべの空そらきりたちこめ。

とわたるかりこゝろもさびし。

戀こひしやとし月つきなれにしふるさと。

ものうきはひのながぢ。



秋 漁

*Andante.*

一、イ リ ヒ ハ ナ ミ ニ コ ガー ネ ノー コ シ  
 二、い そ わ の な ぶ れ お きー に すー す み

ク ロ ミ シ ソ ラ ヘ カ ヘー ル ミー サ ゴ  
 す など る あ ま の さ まー ぞ さー わ ぐ

*cres.* *dim.*

ミー ギ ハ ノ ア シー ニ ノー ホ ル カ ニー ノ  
 かー た わ れ づ きー の ひー が し や まー に

イ マ アー ラー フー ク シー ホ ド キ  
 まー だ のー ぼー らー むー ち と や

○秋 漁

旗野十一郎作歌

一、いり日はなみに、黄金のこし  
 黯然そらへ、かへる鶺鴒。  
 みぎはの芦に、のぼる蟹の。  
 いま泡ふく、満潮時」

二、磯回のを船、おきにすゝみ。  
 すなどる海人の、状ぞ騒忙」  
 片割月のひがし山に。  
 まだ昇らぬ間とや」



琴の音



一、マ ッカゼカ アーラシカア ハレアノーコ  
二、す すむしか まつむしかと ほきあの一こ



エーハ ッキシロシカ ゼキヨシタ  
一は つゆさむくよもふけぬあ



カキコトノシラ ベイツクヨリカヒビク  
やしふえのしらべがどのかたにひびく

○琴の音

○琴の音

五十六

大和田建樹作歌  
メンデルソーン作曲

一、松風か夜あらしかあはれあの聲は。

月しろし風きよし。

たかき琴のしらべ。

いづくよりかひゞく。

二、鈴蟲か松むしかとほきあのこゑは。

露さむく夜もふけぬ。

あやし笛のしらべ。

門のかたにひゞく。



○秋の夜

中村 秋香 作歌  
ア プ ト 作曲

一、秋風さむくなりゆくまゝに。

よるこそことにいとをかしけれ。

まがきのもとに、なくむしのこゑ。

千草の露に、やどれる月かけ。

あなあはれ、あはれ。』

二、燈火かゝげ、机によれば

月こそてらせ、よむ書の上を。

琴引きよせて、手にまさぐれば。

こほろぎなけり、琴柱のほとりに。

あなあはれ、あはれ。』

秋の夜

二、マキカゼサムクケナリニクマレニ  
二、ともかしびかか げつくるニにまれば

ヨルキコソトニセイトナカシケレ  
ツツキコソトニセイトナカシケレ

マニガトキヒノモトニテナクニマシノコレエ  
ガトキヒノモトニテナクニマシノコレエ

チニケハニサるノギツナニエニニ  
チニケハニサるノギツナニエニニ

ヤニニトレチルツキトカリタ  
ヤニニトレチルツキトカリタ

ア ナアハハレアハニレ  
ア ナアハハレアハニレ



附 録

輪 唱

中村 秋 香 作 歌

○寫 眞

- 一、ゆかしきおもわ、さやけきこわね。  
たゞみるごとく、聞くこゝちせり。
- 二、わがふるさととは、ちさとのかなた。  
五百重の雲は、たちへだつれど。
- 三、今このかたに、向へばやがて。  
手をとりはし、あふこゝちしぬ。

四、うれしのかたや、このかたこそは。

あけくれさらぬ、わが窓のとも。

○花 紅 葉

- 一、ゆきて見ばや、さける、山の、櫻の花。
- 二、いざや、おもふどちよ、時は、たがひやすし。  
サあめ風に、うつろはぬ、ひまに。
- 三、ゆきてめでん、にほふ、のべの、もみぢの色。  
サこれかれを、いざなひて、いざや。
- 四、いざや、おぼしたてよ、時は、人をまたず、



サつゆしもに、ちりそめぬ、ほどに、

○兄弟

一、わが父母が、身體を分かちし。

わが身はやがても、わがはらからの身。

二、わがはらからも、又ちゝはゝより。

身體を分かちて、生れし身なれば。

三、さてこそわれは、やがてもはらから。

はらからやがても、ちゝはゝなりけれ。

四、たふときものは、はらからなるかな。

したしきものこそ、はらからなりけれ。

○夜 學

一、軒ばの柳に、月かたぶきて。

書よむともしび、影またたけり。

二、しづまりはてにし、ちまたのかなた。

はるかにきこゆる、遠吠のこゑ。

三、今宵もいつしか、一時をすぎぬ。

この一まきだに、まだよみはてぬ。

○四季のあはれ

一、花さく、春のやま。

梢より、ほのく、しらめる、あけぼの。



寫 眞

7.

一. エ カ シ キ オ モ ロ - サ ヤ ケ キ コ ロ - ネ -  
 二. わ が ふ る さ と は - ら さ と の か な - た -  
 三. イ マ コ ノ カ タ ニ - ム カ ヘ バ ヤ ガ - テ -  
 四. う れ し の か た や - こ の か た こ そ - は -

2.

タ ダ ミ ル ゴ ト ク キ ク コ コ チ セ リ -  
 い ほ ヘ の く も は た ら へ だ つ れ ど -  
 テ ナ ト リ カ カ シ ア フ コ コ チ シ ヌ -  
 あ け く れ さ ら わ が ま ど の と も -

鳴たつ、秋の澤

芦間より、やうく、くれゆく夕ぐれ。

ああ、なにとか、ああ、うたはん。

ああ、なにとか、うたはん。

二、ふみよむ、なつのつき。

をすの外に、そよく、ふきくる朝風。

筆とる、冬のまど。

笹の葉に、さらく、ふりくるはつゆき。

ああ、いかにか、ああ、いふべき。

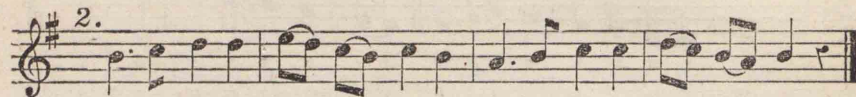
ああ、いかにか、いふべき。



兄 弟

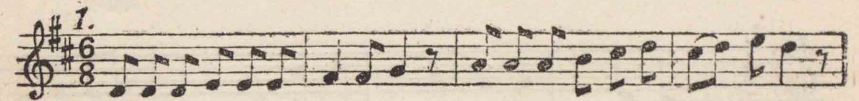


一. ヲガチチハハガムクロチヲカーチーシヲ  
 二. わがはらかーらーもまたちちははーふーりむ  
 三. サテコソヲーレハヤガテモハラーカーヲハ  
 四. たふときもーのーははらからなるーかーなし

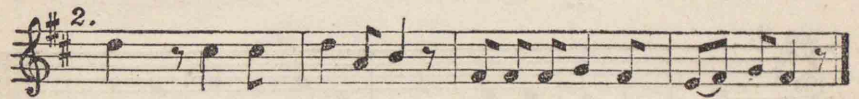


ガミハヤガーテモヲガハヲカラーノミ  
 くるをわかーちてうまれしみなれーぼ  
 ラカラヤガーテモチチハハナリーケレ  
 たしきもーのーそはらからなりけーれ

花 紅 葉



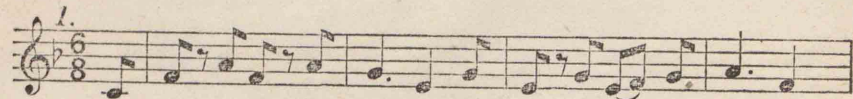
一. エキテミバヤナケルヤマノサクラノハナ  
 二. いざやおもふどちよときはたがひやーすし  
 三. エキテメデンニホフノベノモミヤノイロ  
 四. いざやおぼしたてよときはひとをまーたす



サモロトモニソテツレテイーザヤ  
 さあめかぜにうつろはぬひーまに  
 サコレカレチイザナヒテイーザヤ  
 さつゆしもにちりをめぬほーどに



四季のあはれ



一ハ ナ サク ハ ル ノ ヤ マ コズ エ ヨ リ  
二ふ み よ む な つ の つ き を す の と に



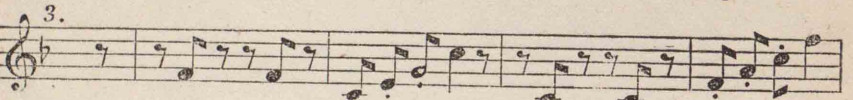
ホ ノ ホ ノ シ ラ メ ル ア ケ ホ ノ  
そ よ そ よ ふ き く る あ さ か ぜ



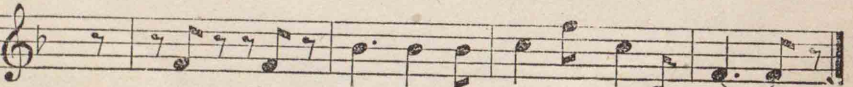
シ ギ タ ツ ア キ ノ サ ハ ア シ マ ヨ リ  
ふ で と る ふ ゆ の ま ど さ さ の は に



ヤ ウ ヤ ウ ク レ ャ ク ャ フー グ レ  
さ ら さ ら ふ り く る は つ ゆ き



ア ア ナ ニ ト カ ア ア ウ タ ハ ン  
あ あ い か に か あ あ い ふ べ き



ア ア ナ ニ ト カ ウ タ ハ ン  
あ あ い か に か い ふ べ き

夜 學



一ノ キ バ ノ ヤ ナ ギ ニ ツ キ カ タ ア キ テ  
二し つ ま り は て に し ち ま た の か な た  
三コ ヨ ヒ ヨ イ ツ シ カ イ チ シ ナ ス ギ ヌ



フ ミ ヨ Δ ト モ シ ビ カ ケ マ タ タ ケ リ  
ほ る か に き こ ゆ る と ほ ぼ え の こ む  
コ ノ ヒ ト マ キ ダ ニ マー ダ ヨ ミ ハ テ



明治三十四年五月十一日印  
明治三十四年五月十五日發  
大正十一年四月七日廿八版發行



不許  
複製

女學唱歌卷一與附

定價金七拾錢

編者 東京市神田區錦町三丁目拾壹番地  
山田源一郎

發行者 東京市芝區松本町四拾四番地  
會社共益商社書店  
代表者 白井保男

印刷者 東京市芝區愛宕町三丁目二番地  
村橋圭二

印刷所 東京市芝區愛宕町三丁目二番地  
東洋印刷株式會社

東京市芝區松本町四十四番地

發行所

會社共益商社書店

電話高輪四〇五七 振貯東一五八〇



發行所

會館  
合辦  
共益商會  
書局

（一）部  
（二）部  
（三）部  
（四）部  
（五）部  
（六）部  
（七）部  
（八）部  
（九）部  
（十）部  
（十一）部  
（十二）部  
（十三）部  
（十四）部  
（十五）部  
（十六）部  
（十七）部  
（十八）部  
（十九）部  
（二十）部

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

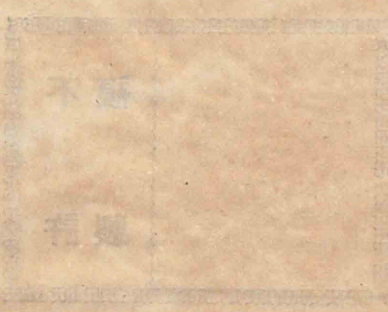
東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地

東京市芝浦區本町四丁目番地



東京市芝浦區本町四丁目番地



音楽  
第一九〇  
號

広島大学図書

2500300268

